

■株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
 定時株主総会 毎年6月下旬
 基準日 定時株主総会・期末配当 毎年3月31日
 中間配当 毎年9月30日

株主名簿管理人 中央三井信託銀行株式会社
 同事務取扱場所 〒541-0041 大阪市中央区北浜2丁目2番21号
 TEL:0120-78-2031 (フリーダイヤル)
 中央三井信託銀行株式会社
 大阪支店 証券代行部

■ご案内

○配当金口座振込サービスのご案内

配当金のお受け取り方法は、これまで「ゆうちょ銀行の窓口でのお受け取り」か「金融機関の口座への振込み」となっておりましたが、「金融機関の口座への振込み」については、平成21年1月の「株券電子化」によってお受け取り方法の選択肢が新たに加わり、利便性がさらに向上しました。

ゆうちょ銀行の窓口にて、配当金領収証と引き換えに配当金をお受け取りいただいている株主様におかれましては、「金融機関の口座への振込み」としていただくことで配当金のお受け取りが簡単で確実になります。この機会にぜひご検討ください。

なお、ご所有の株式の預け先によって、ご利用できるお受け取り方法が異なりますので、詳細についてはお取引のある証券会社又は中央三井信託銀行までお問い合わせください。

○事務のお取扱い(電話お問い合わせ・郵送物送付先)

中央三井信託銀行株式会社 証券代行部(証券代行事務センター)
 〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目8番4号
 TEL:0120-78-2031 (土日祝日を除く 午前9時～午後5時)

今回の表紙

今回のBusiness Reportでは、ECD(ユーロコプタードイツ)社と共同開発したヘリコプター「BK117」を取り上げました。表紙の機体は神戸市航空機動隊で使用している「KOBE-II」で、同隊の拠点である神戸ヘリポートで撮影したものです。



楽しく体験!陸・海・空のテクノロジーワールド

カワサキワールド

Kawasaki Good Times World

2011年7月、リニューアルオープン!

新しいカワサキワールドでは、超低床電池駆動路面電車「SWIMO®」の実物大模型などがご覧いただけるようになりました。これを機会に、ぜひお越しください。



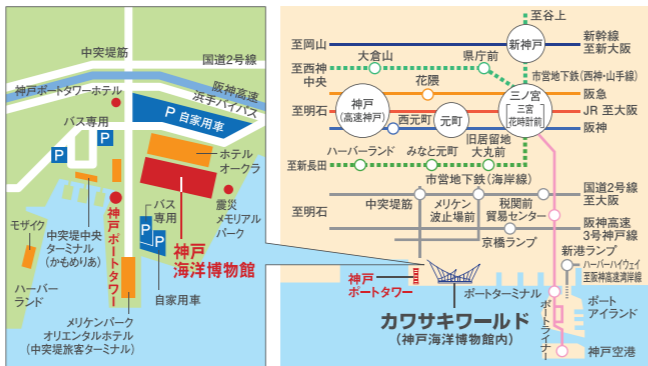
所在地 〒650-0042 兵庫県神戸市中央区波止場町2番2号
 開館時間 午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
 休館日 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は、翌日に休館) 年末年始(12月29日から1月3日)
 お問い合わせ TEL:078-327-5401 FAX:078-327-5402
<http://www.khi.co.jp/kawasakiworld/>

- 飛行機で
「神戸空港」からタクシーで約20分
- 新幹線で
「新神戸駅」からタクシーで約15分
- 電車で
市営地下鉄海岸線「みなと元町駅」から徒歩約10分
JR・阪神「元町駅」から徒歩約15分
神戸高速(阪急・山陽)「花隈駅」から徒歩約15分
- シティループで
「地下鉄三宮駅前(南行)」乗車約15分
「中突堤(ポートタワー前)」下車徒歩1分
- 車・タクシーで
JR・阪神・阪急「三宮駅」から約10分
JR・阪神「元町駅」から約5分
阪神高速道路「京橋ランプ」から約5分
ハーバーハイウェイ「新港ランプ」から約5分
※周辺には駐車場(有料)があります。

神戸海洋博物館入館料	大人	500円	小人(小中学生)	250円
------------	----	------	----------	------

※入館料には、各種割引があります。※カワサキワールドの入場料は、神戸海洋博物館の入館料に含まれています。

■交通案内



この報告書は環境に配慮し、植物油インキを使用しています。



ミックス
責任ある木質資源を使用した紙
FSC® C022337

Business Report

第189期 第2四半期[累計]

平成23年4月1日→平成23年9月30日

[Top message]

株主の皆様へ 第189期の現状と業績見通しについて

[Product introduction]

大空から救い、守り、
運ぶヘリコプター、「BK117」

[Works exploration]

工場探訪 vol.1 神戸工場
製造現場のパワーに触れる旅



株主の皆様へ

第189期の現状と業績見通しについて



東日本大震災で被災された方々に対し、心よりお見舞いを申し上げます。当社グループは、社会インフラ整備の一翼を担う企業として、引き続き被災地の早期復旧・復興に貢献してまいります。

—— 中期経営計画「中計2010」（2010年度～2012年度）の折り返し地点を迎えましたが、これまでの進捗状況を聞かせてください。

一般的には、当初の前提レート1ドル=90円からさらに円高が進行するなかで、2010年度（第188期）に引き続き、今年度（第189期）上期決算についても、計画を上回る業績を確保できており、中計の前半については順調に進捗したと評価しています。

この要因は、生産性向上や固定費の削減に加え、中国を中心とした新興国需要を確実に取り込んできたことによります。特に、中国の造船やセメントプラント分野における協業、建設機械向け油圧機器事業の成果によるところが大きいと思っています。

足元では、円高やタイの洪水の長期化といった業績の下ぶれ要因もありますが、中計の重点施策を加速することによって2011年度の目標達成を確かなものとし、中計の最終年度（2012年度）につなげていきたいと考えています。

—— グローバルに変化する経営環境に対して、どのように取り組んでいますか。

中国については、金融引締めによる経済成長の鈍化が懸念されているものの、今後、「世界の工場」から「成熟した市場」へと変化するなかで、沿岸部を中心とした成長から内陸部の都市化への流れが持続しており、インフラの整備に関する需要はまだ根強いものがあります。特に、エネルギー・環境分野やゴミ処理・水問題など解決すべき課題が多く、今後とも中国は当社グループにおける重要な市場として位置づけています。

また、今後は、インド・ブラジルなどポスト中国と位置づけられる地域において、インフラ事業を中心にいかに需要を取り込んでいくかが重要なポイントになると考えています。

先進国では個人消費向け事業が依然として苦戦していますが、当社グループ全体としてはむしろチャンスが拡大しています。ボーイング787ドリームライナーが初就航したことで、当社の複合材による機体や高効率のエンジンTrent1000の分担品の生産本格化が期待されるほか、北米の車両事業では、ニューヨークやワシントンD.C.などで都市近郊車両の受注を着実に伸ばしています。

こうした状況から、新興国・先進国についてバランス良くグローバル化に対応できていると考えています。

—— わが国を中心に将来のエネルギーのあり方に対する議論が活発化しています。

再生可能エネルギー分野、なかでも太陽光や風力などの自然エネルギーに注目が集まっており、当社グループとしても各種分野の研究開発に鋭意取り組んでいるところですが、足元の電力需要に応えるだけの規模を実現するのはまだ先の話です。再生可能エネルギー活用の本格化が進むまで、当面は、当社グループが得意とするガスの高度利用による分散型発電の役割が重要になってくると考えています。

当社では、世界最高レベルの発電効率を実現したグリーンガスエンジンの引き合いが震災以降に急増し、生産能力の増強に取り組んでいるほか、各種の非常用発電設備の需要増にも確実に対応しています。さらには、従来の機器単体のビジネスに加えシステム全体のソリューションビジネスの展開を強化しており、今後、その成果が着実に現れてくるものと期待しています。



将来に向けては、低炭素社会の実現を目指し、CO₂フリーの水素社会の実現に向けた提案を行っていますが、日本並びにオーストラリア政府からの期待も大きくなってきており、各種試験の実施など技術開発を加速しています。

—— 最後に株主の皆様へひと言お願いします。

『世界の人々の豊かな生活と地球環境の未来に貢献する“Global Kawasaki”』を目標に掲げる当社グループが、将来にわたって持続的成長を遂げていくためには、株主の皆様からの一層のご支援とご協力が欠かせません。そのためにも、当社グループは、引き続きコーポレートガバナンスの強化と内部統制の充実に取り組んでいくとともに、企業としての社会的責任を果たしていくことを通じて株主の皆様からの信頼に応えていこう、尽力してまいります。

2011年12月

は せ が わ さ と し
取締役社長 長谷川 聡

大空から救い、 守り、運ぶヘリコプター、 「BK117」

「BK117」は、川崎重工とECD(ユーロコプタードイツ)社(旧:メッサーシュミット・ベルコウ・ブロウム社)と共同で開発され、1983年の初号機納入以来、多くの場面で活躍しています。

震災でも貢献。様々な用途があるロングセラー機。

このたびの東日本大震災では、多くの自治体の消防隊が緊急消防援助隊として被災地に駆けつけました。道路などの交通機能が失われ、救急車などの出動が妨げられるなか、派遣された消防・防災ヘリコプターは、その機動力を活かして患者などの救急搬送、孤立した被災者の救助活動などにあたりました。兵庫県からは神戸市航空機動隊・兵庫県消防防災航空隊



左:神戸市所属「KOBE-II」
右:兵庫県所属「ひょうご」

で共同運航されている3機のBK117のうち、兵庫県所属の「ひょうご」が、震災直後から両隊の隊員とともに岩手県・花巻空港に派遣されました。延べ56日間

の派遣期間中、「ひょうご」は救急搬送やカメラを搭載しての情報収集活動などを行いました。

BK117は、他にも物資・人員輸送、警察、ドクターヘリ(救急医療用ヘリコプター)、報道などの用途があり、これまでに153機(2011年10月1日現在)、ECD社分も含めると世界で850機以上の納入実績があります。最新型は、飛行能力・輸送能力の大幅な向上、騒音・振動の大幅な低減、快適な操縦環境などを実現しました。これからも、当社はお客様の要望に基づいた改良・技術開発を続け、時代のニーズに即したヘリコプターを提案し、社会に貢献していきます。



東日本大震災における「ひょうご」の活動

大空から命を守る、ドクターヘリ。

近年では政府の支援もあり、各都道府県の病院でドクターヘリの導入が進んでいます。ドクターヘリは、救急車では到達まで時間のかかる場所などでの事故、急病人にも迅速に対応できることから、治療開始までの時間の短縮による救命率の向上、後遺症の軽減が期待できます。BK117は、キャビンスペースが広いこと、大きな観音開きドアから担架などを迅速に搬出入できることなどからドクターヘリとして高く評価されており、最新型では



活動中のドクターヘリ
【提供:セントラルヘリコプターサービス(株)】

キャビンスペースをさらに拡張しています。2011年10月1日現在、ドクターヘリを導入している国内33医療機関のうち、16ヶ所でBK117が採用(予定を含む)されています。

神戸市航空機動隊について

今回、本紙面の作成にあたり神戸市航空機動隊から多くのご協力をいただきました。同隊は1972年に発足、2004年から、広域化・大規模化する災害に迅速に対応するため、全国で初めて兵庫県消防防災航空隊との県・市共同運航を開始しました。

同隊はBK117計3機(神戸市2機、兵庫県1機)を一体的に運用して常時2機稼働体制で活動しており、神戸ヘリポートを拠点として救急搬送や消火活動のほか、山岳救助などで年400回以上出動しています。



神戸市航空機動隊・兵庫県消防防災航空隊の隊員の皆様

工場探訪

vol.1
神戸工場

製造現場のパワーに触れる旅

今回から「工場探訪」と称し、当社の工場を紹介する連載特集を掲載します。

初回は川崎造船所創業の地である神戸工場です。

当社創業者の川崎正蔵は、1878年に東京・築地、1881年に神戸にそれぞれ造船所を開設しました。

その後、明治政府から払い下げを受けた官営兵庫造船所と

築地・神戸の造船所とを1886年に併合、川崎造船所（現神戸工場）が誕生しました。

The History

長い造船業の歴史を語る乾ドック

神戸工場には1902年に建設された乾ドックが現在も残っており、1998年に文化庁より乾ドックとしては国内で初めて「登録有形文化財」に登録されました。

乾ドックは、船舶がドック内に入るとゲートを閉め、ドック内の海水をポンプで排出し、船体全てを水から出す施設です。従来のワイヤーなどにより陸地へ船舶を引き上げて修理などを行う方法では、大型船になるほど、引き上げ作業が困難となるため、乾ドックの建造に踏み切りました。

しかし、地盤が軟弱なため、工事は難航、工期6年、総工費170万円（当時の資本金は200万円）を費やし、遂に完成しました。



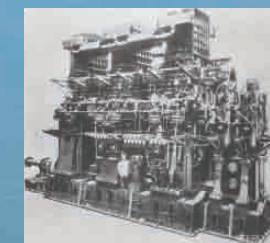
竣工間近の乾ドック(1902年)

古くから重要拠点として活躍

神戸工場では造船事業に加え、操業開始当初から船用エンジンや各種プロペラなどを製造し、現在ではその技術を基に発電機用エンジンなど幅広い原動機製品を製造しています。

また、1932年から製造を始めたセメントプラントをはじめとする、各種産業機械にも注力し、1961年には、その規模拡大に向け、神戸工場内に専門工場も建設しました。現在では、プラント・環境事業として、産業機械製造から設計・エンジニアリングなどへとシフトし、付加価値の高い設備を提供しています。

今年で開設125年を迎える神戸工場は、今後も当社の重要拠点として持続的な発展を目指していきます。



フラガー式ディーゼル機関(1924年)

【神戸工場】

兵庫県神戸市中央区東川崎町3丁目1番1号
工場敷地 364千㎡
従業員数 2,549名(2011年3月現在)

【主要業目】

■船舶海洋事業

ぼら積み船、超高速旅客船(ジェットフォイル)、
艦艇、官公庁船、各種海洋構造物

■ガスタービン・機械事業(機械ビジネスセンター)

陸・船用蒸気タービン、ディーゼル機関、
ガスエンジン、減速装置、船用推進装置、
各種空力機械(天然ガス圧送設備等)

■プラント・環境事業

各種プラント、環境保全設備、鉄鋼構造物、
土木・建設機械、新エネルギー関連設備

海と陸と、 最先端を求めた技術のリレー

1886年の神戸工場操業開始以来、時代の要求する最先端の船舶を建造してきた長年の経験とノウハウを活かし、現在では、ばら積み船などの商船をはじめ、潜水艦、各種官公庁船など高度な技術を要する高付加価値船の開発・建造・保守を行い、安全で効率の良い製品を提供しています。本紙面では、その中からばら積み船の建造の流れをご紹介します。

加工

溶接時に発生する熱による変形や収縮を予測（最終的な要求精度は全長200mの船で±数十mm）して設計した図面データを自動切断機に入力し、鉄板を切断します。その鉄板をガスで加熱後、水で冷却することで、船体の曲面を造り出します。



自動切断機による切断

曲げ加工作業



ブロック溶接とブロック(右下)

進水式

組立

加工した鉄板を組み合わせて溶接し、100個以上に及ぶ大型ブロックを製造します。それらをクレーンで建造船台に運び、積み上げて溶接していきます。また、並行してエンジンやプロペラなどを搭載し、船は進水式を迎えます。その後、各種船用機器を取り付け、お客様へ引き渡します。

船舶海洋 カンパニー

ガスタービン・機械カンパニー (機械ビジネスセンター)

当事業部門では船舶の運航に必要な動力を生み出す蒸気タービンの製造を開始して以来、ディーゼル機関やスクリュプロペラなど各種船用製品のラインナップを拡充するとともに、その技術を応用した様々な陸用製品を製造しています。その一つに、ディーゼル機関の技術をベースとするガスエンジンがあります。ここでは、そのガスエンジンの製造の流れをご紹介します。

共通台板の溶接

ガスエンジンを発電機などの周辺機器とともに載せる台（共通台板）を溶接します。



共通台板の溶接

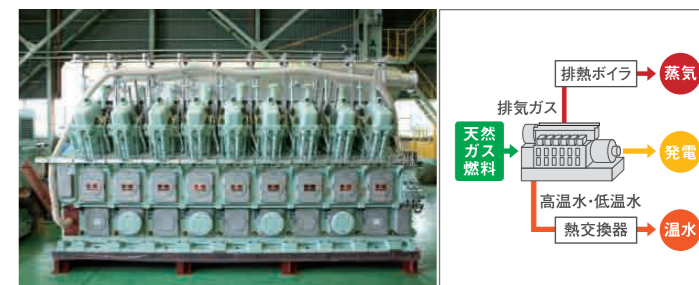
架構の切削と切削部分(左下)

架構の精密な切削加工

動力を生み出すシリンダーなどを収める重要な大型部品である架構は、大型工作機械により、狭小部や深穴、傾斜面への切削加工など、特殊で高精度な加工を行います。

組立が完了したガスエンジン

架構など多くの部品を組み立てて完成したガスエンジンは、周辺機器とともに共通台板の上に据え付けた後、お客様へ引き渡します。発電効率が高く経済性・環境性能に優れた「グリーンガスエンジン」は、中小規模発電所や自家発電など様々なシーンで活躍します。



出荷前

適用例

この匠、 この技術

石田 順一
(神戸造船工場 工作部船殻課)

熟練の技を形式知化した匠

船舶の建造には、ブロック据付や部材取付位置の基準となる直線や曲線を、墨付きの糸で鉄板などに書き込む作業（野書き）があります。石田氏は、野書き作業における高度な技能はもちろんのこと、その作業に関する様々なデータを収集、分析し、手順書に落とし込むことで、匠の技を形式知化した功績が国から認められ、2009年に黄綬褒章を受章しました。



この匠、 この技術

竹内 守雄
(機械ビジネスセンター 製造部組立課)

1/1000mmの精度を手作業で実現する匠

船用タービンは毎分数千回転という高速で回転しており、そのままプロペラを接続すると水の抵抗に負けプロペラは破損します。パワーは維持しつつ、回転を数十回転まで落とすため、複数の歯車で構成される減速装置が必要です。竹内氏は、この装置の組立・調整時に要求される1/1000mm単位の精度を手作業で実現する技能を国から認められ、2011年に黄綬褒章を受章しました。



第189期第2四半期(累計)報告

Financial highlights

先行きの不透明感は払拭されないものの、 通期業績予想値の達成に全力を傾注。

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、円高の継続や、資材価格の高止まりに加え、東日本大震災による影響なども懸念されるなど、先行き不透明感が払拭されていません。また、世界経済は、新興国の旺盛なインフラ需要に支えられ、総じて緩やかな成長基調にあります。米国のバランスシート調整の長期化や一部の欧州諸国のソブリンリスクによる景気の下ぶれが懸念されています。

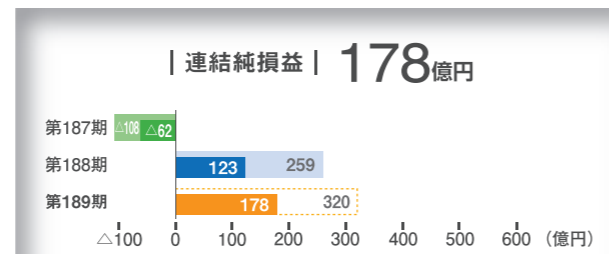
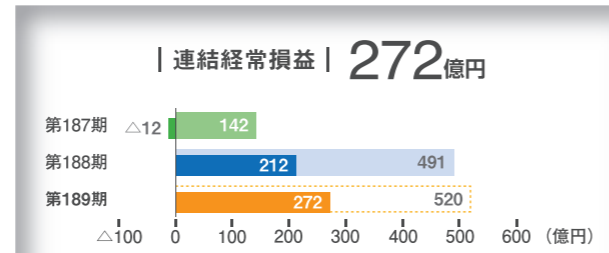
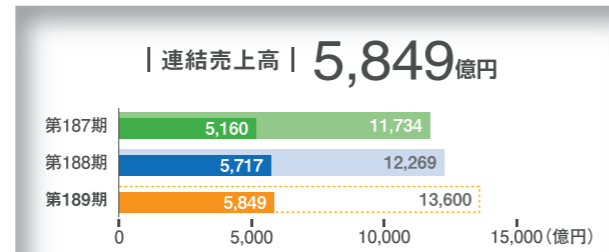
そうしたなか、当第2四半期累計期間における当社グループの各事業は、売上高では精密機械事業、航空宇宙事業、プラント・環境事業などの増収が他の事業の減収を補って全体では増収となり、損益面では、精密機械事業や航空宇宙事業などの増益・改善が大きく寄与し、全体では増益となりました。この結果、当社グループの連結業績は、売上高は5,849億円、経常利益は272億円、四半期純利益は178億円と、それぞれ前年同期を上回りました。

なお、通期予想につきましては、連結売上高1兆3,600億円、経常利益520億円、当期純利益320億円であり、その達成に全力を傾注します。

※業績予想などは、合理的と判断するデータに基づいて作成し、11月2日に開示したものであり、リスクや不確定要素を含んでいるため、実際の業績は予想と異なる可能性があります。

■ 第2四半期(累計) / ■ 通期

※ 第189期通期は予想数値



事業分野別の概況

■ 第2四半期(累計) / ■ 通期

※ 第189期通期は予想数値

船舶海洋事業

大型案件の売上減少等により減収減益

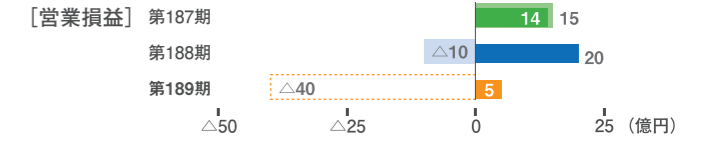
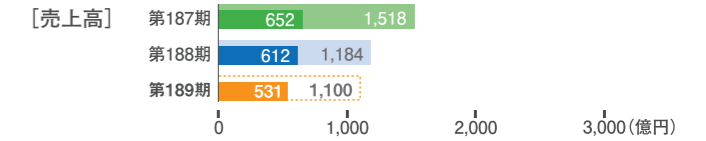
売上高は、LNG運搬船などの大型案件が順調に進捗した前年同期を下回り、営業利益も、円高・鋼材価格上昇の影響などにより前年同期を下回りました。



LNG運搬船「エネルギーホライズン」

9.0%

売上高
構成比



※2010年10月1日より、「船舶事業」を「船舶海洋事業」に名称変更しております。

車両事業

海外向け鉄道車両の売上減少等により減収減益

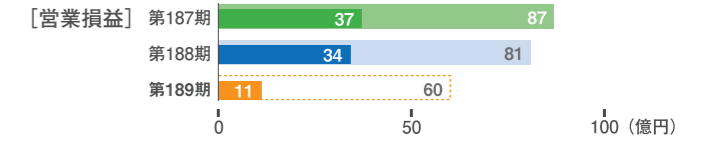
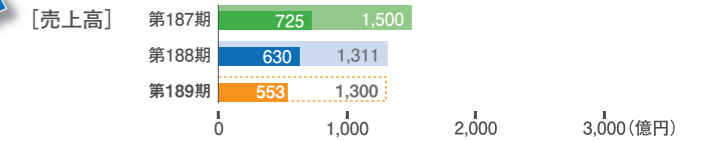
海外向け鉄道車両の売上減少や円高の影響などにより、売上高、営業利益ともに前年同期を下回りました。



225系近郊形電車

9.4%

売上高
構成比



※第187期より、建設機械部門を「車両事業」から除外しております。

※第188期より、破砕機部門を「車両事業」から除外しております。

航空宇宙事業

ボーイング社向けの売上増加等により増収増益

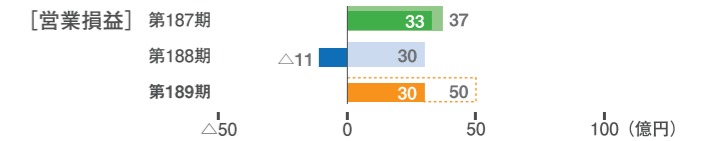
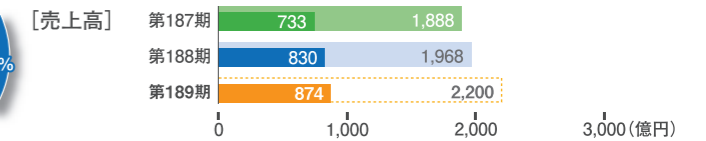
ボーイング社向けB777旅客機分担製造品の売上増加などにより、売上高、営業利益ともに前年同期を上回りました。



ボーイング787ドリームライナー

売上高
構成比

14.9%



■ 第2四半期(累計) / ■ 通期
※ 第189期通期は予想数値

ガスタービン・機械事業

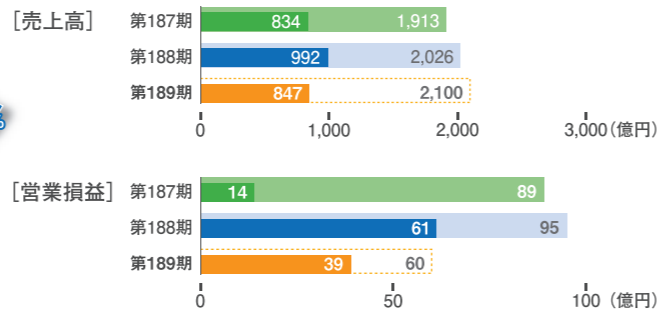
ガス圧縮機設備の売上減少等により減収減益

ガス圧縮機設備や防衛省向けの売上減少などにより、売上高、営業利益ともに前年同期を下回りました。



沖縄電力(株)石垣第二発電所向け4サイクルディーゼル発電設備

売上高
構成比
14.4%



プラント・環境事業

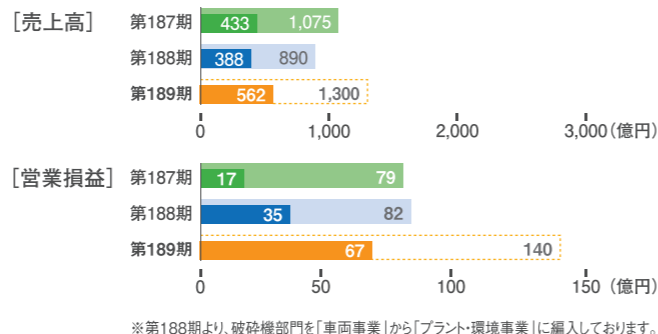
海外向けプラントの売上増加等により増収増益

海外向けプラントの売上増加などにより、売上高、営業利益ともに前年同期を上回りました。



ベトナム プットソン社向けセメントプラント

売上高
構成比
9.6%



モーターサイクル&エンジン事業

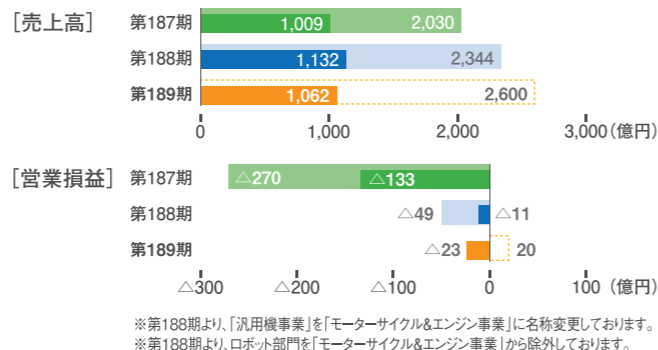
先進国向け二輪車の販売減少等により減収減益

先進国向け二輪車の販売減少や円高の影響などにより、売上高、営業損益ともに前年同期を下回りました。



Ninja ZX-14R (2012年モデル)

売上高
構成比
18.1%



精密機械事業

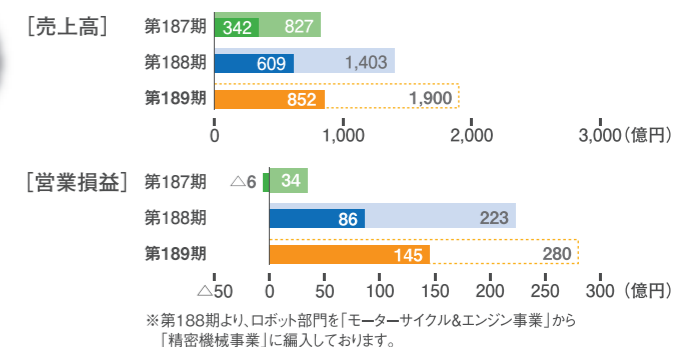
建機市場向け油圧機器の売上増加等により増収増益

建機市場向け油圧機器及び半導体製造装置用各種クリーンロボットの売上増加などにより、売上高、営業利益ともに前年同期を上回りました。



左:コントロールバルブ 中央:油圧ポンプ 右:油圧モータ

14.5%
売上高
構成比



その他事業

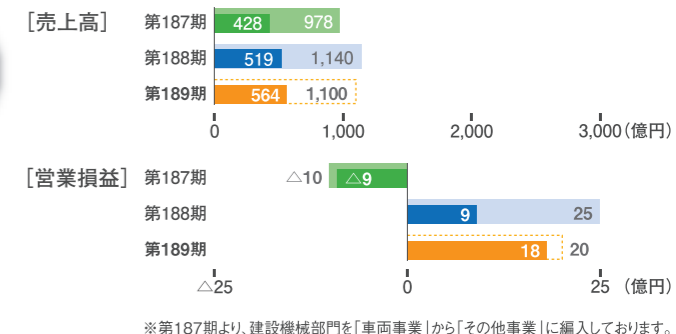
(建設機械の製造・販売、ビル等の管理、商業など)

建設機械部門の売上増加などにより、売上高、営業利益ともに前年同期を上回りました。



カワサキホイールローダ「92ZV-2」

9.6%
売上高
構成比



TOPICS / 潮流発電システムの開発に着手

潮流エネルギーは気象の影響を比較的受けにくく発電量が安定していることから、その実用化が有望視されています。当社は船舶や海洋構造物の開発・建造実績、発電プラントなどの幅広いエンジニアリング技術も活用して、潮流発電システムの開発を進めます。このほど新エネルギー・産業技術総合開発機

構(NEDO)の「海洋エネルギー発電システム実証研究事業」の実施企業に採択され、沖縄電力(株)並びに沖縄新エネ開発(株)の協力のもとでの国内実証試験を予定しています。また欧州海洋エネルギーセンターでの本格試験も行い、今後、英国など世界で発展が見込まれる大規模プロジェクトへの参画や、日本国内での商用発電などを目指します。



イメージ図

第189期第2四半期(累計)報告

連結財務諸表

第2四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目		当第2四半期末	前期末
		平成23年9月30日現在	平成23年3月31日現在
資産の部	流動資産	894,003	951,719
	固定資産	415,585	402,558
	有形固定資産	283,061	275,780
	無形固定資産	19,054	19,249
	投資その他の資産	113,469	107,529
	資産合計	1,309,588	1,354,278
負債の部	流動負債	645,426	703,726
	固定負債	357,509	353,117
	負債合計	1,002,936	1,056,844
純資産の部	株主資本	329,761	317,176
	資本金	104,484	104,340
	資本剰余金	54,393	54,251
	利益剰余金	170,904	158,615
	自己株式	△21	△30
	その他の包括利益累計額	△32,382	△28,119
	その他有価証券 評価差額金	2,753	3,876
	繰延ヘッジ損益	△913	△990
	為替換算調整勘定	△34,223	△31,006
	少数株主持分	9,274	8,376
	純資産合計	306,652	297,433
負債純資産合計	1,309,588	1,354,278	

第2四半期連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	当第2四半期累計期間	前年同期
	平成23年4月1日から 平成23年9月30日まで	平成22年4月1日から 平成22年9月30日まで
売上高	584,990	571,708
売上原価	485,826	481,156
売上総利益	99,164	90,551
販売費及び一般管理費	72,541	69,647
営業利益	26,623	20,904
営業外収益	8,308	8,610
営業外費用	7,694	8,265
経常利益	27,237	21,249
特別損失	924	536
税金等調整前四半期純利益	26,312	20,712
法人税等	7,254	7,434
少数株主損益調整前 四半期純利益	19,058	13,278
少数株主利益	1,245	943
四半期純利益	17,813	12,334

第2四半期連結包括利益計算書

(単位:百万円)

科目	当第2四半期累計期間	前年同期
	平成23年4月1日から 平成23年9月30日まで	平成22年4月1日から 平成22年9月30日まで
少数株主損益調整前四半期純利益	19,058	13,278
その他の包括利益	△4,141	△5,535
その他有価証券評価差額金	△1,175	△1,726
繰延ヘッジ損益	153	1,061
為替換算調整勘定	△3,680	△3,975
持分法適用会社に対する 持分相当額	561	△895
四半期包括利益 (内訳)	14,916	7,742
親会社株主に係る四半期包括利益	13,550	6,904
少数株主に係る四半期包括利益	1,366	837

第2四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	当第2四半期累計期間	前年同期
	平成23年4月1日から 平成23年9月30日まで	平成22年4月1日から 平成22年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	32,572	48,168
投資活動によるキャッシュ・フロー	△32,686	△26,164
財務活動によるキャッシュ・フロー	△5,328	△20,096
現金及び現金同等物の 四半期末残高	35,701	33,800

会社概要・株式の状況・大株主

会社概要

(平成23年9月30日現在)

創立	明治29年10月15日
資本金	104,484,658,872円
従業員	14,918名
本社	(神戸)神戸市中央区東川崎町1丁目1番3号 (東京)東京都港区浜松町2丁目4番1号

株式の状況

(平成23年9月30日現在)

発行可能株式総数	3,360,000,000株
発行済株式総数	1,671,892,659株
株主総数	154,620名

大株主

(平成23年9月30日現在)

株主名	所有株式数	比率
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	80,579,000株	4.81%
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	72,753,000株	4.35%
株式会社みずほ銀行	57,443,650株	3.43%
JFEスチール株式会社	56,174,400株	3.35%
日本生命保険相互会社	54,016,659株	3.23%
川崎重工共栄会	34,050,192株	2.03%
東京海上日動火災保険株式会社	33,136,589株	1.98%
川崎重工業従業員持株会	30,708,217株	1.83%
SSBT OD05 OMNIBUS ACCOUNT-TREATY CLIENTS	29,006,700株	1.73%
株式会社三井住友銀行	26,828,453株	1.60%